野口光宣教授定年退職記念号によせて

経済学部長 勝 浦 正 樹

野口光宣教授は、2025年3月末をもって経済学部教授としての定年を迎えられます。ここに名城大学、旧商学部、経済学部に対する野口先生のご貢献に対して、心より感謝の意を表する次第です。

野口先生は、1980年にアメリカのメソジスト大学を数学主専攻で卒業の後、デューク大学大学院数学研究科博士前期課程・博士後期課程を経て、1986年にデューク大学理学部数学科の客員講師に就任されました。その後、オハイオ州立大学理学部助教授、名古屋商科大学商学部専任講師・助教授を経て、1993年に名城大学商学部に助教授として着任されました。1998年に同教授に昇任され、2000年からは経済学部教授として教鞭をとられております。

学部教育において野口先生は、情報の経済学やマクロ経済学に関連した諸科目を担当されるとともに、基礎ゼミナール、専門ゼミナールなども担当してこられました。マクロ経済学に関しては、ご自身で執筆された入門書を活用しながら、マクロ経済学の基礎をわかりやすく学生に伝えることに専心されております。

野口先生は2013年から2年間、経済学部長・経済学研究科長として、学部・大学院を牽引され、多くの困難な課題に適切に対応してこられました。そして、学部長・研究科長の任期が終了した直後の2015年に名城大学の副学長に就任されて以来、10年もの長きに亘って副学長としての重責を担われております。さらに、名城大学の常勤理事も兼任され、教学と法人のパイプ役として、重要な役割を果たされています。2020年度には新型コロナウイルス感染症拡大への対応として、大学はオンライン授業への移行を余儀なくされましたが、そのツールとしてWebClassの活用をいち早く決断されたのは、教育担当副学長の野口先生のリーダーシップによるものであり、その後の名城大学のコロナ対応が適切であったことに野口先生のご貢献が大きかったことは、多くの教職員が認めるところであります。

野口先生の凄いところは、学部長や副学長などの重責を12年連続で担い超ご多忙であるにもかかわらず、その間にも質の高い研究成果を公表し続けられたことです。数学がご専門だった野口先生は、近年はゲーム理論など数理経済学の分野で国際査読誌に多数の論文を公表されております。副学長の任期中にも、科学研究費補助金に研究代表者として2件採択されており、その仕事ぶりには脱帽するとしか言いようがありません。

ここに定年退職記念号を刊行し、野口先生の名城大学での研究・教育・学内行政に対するご苦労とご功績に、心から感謝の意をもって捧げたいと思います。ご存知の通り野口先生は、2025年4月から名城大学学長に就任される予定ですが、今後のますますのご活躍を祈念して、定年退職記念号によせる言葉といたします。